

# ちばしや通信

Vol.2

私たちが大事にしてきたこと

各拠点への思い

今月号と次回第三号では、当法人がこの一〇年間、どのような思いや考えで、拠点づくりやサービスづくりを進めてきたのかを改めてお伝えしたいと思います。

生活圏で共に支え合う関係・場づくり

(鶺嶺の家の開設)

鶺嶺の家は、「地域に住む誰もが、自分らしく、住み慣れた自宅や地域で、これまでの人間関係を維持継続しながら生活し続けられる」サービスと支援の拠点とする

ため開設しました(平成十七年一月)。先達の宅老所の実践に学び、介護保険制度に基づく通所介護事業と自主事業によるお泊りや訪問支援を必要に応じて組み合わせるカタチをとりました。また、健康福祉千葉特区を活用し、障がいのある方や子ども達も利用できるようにしました。さらに、地域での支え合いや引きこもり予防、仲間づくり等を目的としたサロン活動も行っていきました。

開設して三ヶ月目に、ご近所に住むお年寄りから利用が始まり、同年六月には、自宅に引きこもっていた障がいのある青年が日中の居場所

として通って来るようになり、七月からは、障害のある子ども三人の放課後や長期休業時の受け入れをしていきました。

お年寄り子どもと障がいのある人、ご近所の方々、スタッフのいろんな関わりから生み出される双方向の関係性は、日々の様々な出来事を生み出してきました。その出来事の一つひとつが、鶺嶺の家の面白さであり、財産だと思っています。



山武郡は勿論のこと、千葉県内でも「共生ケア」を取り入れている事業所はあまりありませんが、地域福祉が進む中で、より必要な視点と実践になると考えています。

「生活力・関係力」を育む支援・場づくり

(ほけつとの開設)

鶺嶺の家開設から五年が経過する中で、障がいのある子どもや家族を支えるニーズが加速度的に高まり、平成二一年四月、鶺嶺の家の近所に子どもを主たる対象とした「子ども支援センターほけつと」を開設しました。勿論、鶺嶺の家と同じように地域の民家を使いました。地域の中にある普通の民家での療育支援や子育て支援は、当時の東金市や山武地域において特異な



形態ではありましたが、子ども達が成長し地域の中で自立して普通に暮らせるようになるためには、地域の中の民家を拠点に「生活力・関係力」を育むことが大事であると考えました。

実際に、近隣地域にお散歩に出かけご近所さんや商店の方々や何度も会話したり顔を合わ



## 理事からの メッセージ



ちば地域生活支援舎（略称：ちば舎）を共に始める仲間との出会いは、平成16年の夏でした。それぞれが「地域で暮らすこと」を支える実践・研究・啓発等をしてきた人達で、私達東金市手をつなぐ親の会（略称：親の会）が目指してきた「本人が望む生活、安心して豊かに暮らしていける社会の実現」に多くの部分で方向性が重なるものでした。

「とにかくやってみよう」という思いで、ちば舎を共に開設しました。開設当初は、一定の団体とより近く深く関わりを持つことに様々な意見がありましたが、ちば舎の10年間の実践はその心配を解消するものでした。

「どんな障がいのある子どもでも、普通に地域で自立して暮らす！親も適度に子離れして暮らせる！」そんな地域社会までには、まだまだサービスも地域で支える仕組みも十分ではないと感じています。

親の会としても、障がいの子どもの持つ親の声をしっかり受け止め、繋がりながら、輪を広げつつ、ちば舎と協働しながら必要な支援・サービスづくりを進めていきたいと考えています。

**（鎗田敏光／理事、東金市手をつなぐ親の会・会長）**

## 各種イベント & 各種情報

### きもの地サロン

着なくなった着物をほどき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。（初心者歓迎）

◆開催日：毎月第二、第四

の月曜日

※近日 一二月二二日、

一月一二日、

一月二六日

◆場所：鶉嶺の家

ありさ

参加費・時間等の詳細を知りたい方は、鶉嶺の家にご連絡ください。

（電話：五〇・〇二八五）

### ヨガサロン

旧道の岸本薬局の斜め向かいにあるありさの2階で開催中。興味のある方は、ありさまでご連絡ください。

（電話：五〇・〇三六二）

### ちば地域生活支援舎

#### 法人開設一〇周年行事

日時：平成二七年二月一日

開会（一〇時より）

会場：東金市中央公民館

・講堂、研修室

・会議室

内容：式典、講演、各活動紹介、展示・販売、皆で楽しめるダンス&ミュージック等

（詳細は、後日チラシにて）





せたりすることで、気にかけてもらえるようになったり、公園で同世代の子ども達との遊びから関係が生まれ、地域の子どもがぼけつとに遊びにくるようになっていっています。

その歩みはゆつくりですが、着実に実つていると実感しています。

また一方では、地域の人たちの障がいのある子ども達への理解も少し進んだ気がします。

五年後一〇年後に、一人ひとりが住み慣れた地域や家、仲間たちとの育ちの中で紡がれてきた関係性のある地域で自分らしい暮らしができることを願って、三六五日のサポートを続けています。

### 自分にあつた仕事と場づくり (ハンドワークの開設)

ぽけつとの開設と同じ平成二十一年四月より、

就労継続支援B型事業所ハンドワークを開設しました。就労継続支援B型事業所ハンドワークは、東金市手をつなぐ親の会が、平成一二年より学校卒業後の子ども達の居場所のためにと開設した「ハンドワーク」と、あゆみの里(代表..杉田輝彦さん)が、養護学校(現、特別支援学校)



を卒業した子ども達のを就労場所として開設した「カバの家」、そして当法人が開設した「ありさ」の二事業所が合併し作られた事業所です。

決められた仕事に、障がいのある人や子ども達が合わせるのではなく、一人ひとりの特性やしたいことに合った仕事づくりをしたいという思いから、それぞれの拠点ごとに仕事をつくり実施しています。

ハンドワークは、齋場に収めるおつまみセットやお茶菓子セットづくり、ソーイングセツトづくり

をしていますが、

また、新しくクッキー等のお菓子の製造・販売も始めました。

メンバーは、とても明るく元気で、作業にも一生懸命取り組んでいます。

カバの家は、あゆみの里開設当初からのパン製造と販売を続けています。各種公共施設やイベント会場、福祉施設等への出張販売をしています。メンバー一人ひとりがしっかりと関わり、みんなで製造・販売をしています。

ありさは、店頭販売、



おにぎりやサーターアソダギの製造・販売、カゴづくり、簡易印刷作業、清掃作業、カレンダー製作等を行っています。

メンバーは、沢山のいろんな仕事を試みながら、自分達に合った仕事を模索しています。

開設して五年。その歩みはまだまだ遅く、思い描く実践への道のりは遠いのですが、メンバーとスタッフ、関わってくれる人達と一緒に考え・悩み・揺れ・試みながら進んでいます。

(次号へつづく)

## 【法人内の各事業所から】

### 鴛嶺の家（高齢者・障がい者）

鴛嶺の家に通ってこられる Y さんは、いつも鴛嶺に集うみんなのことを気遣ってくれます。今年も寒い冬に備えて、スタッフ全員に Y さんとお揃いのミニマフラーを編んでくださいました。色合いやカタチは、個々人に合わせて様々だけど、愛情いっぱい！！頑張ってるこの冬を越えたいと思います。いつもありがとうございます。

### 鴛嶺の家（児童）

（ある日の出来事） 鴛嶺に通う H 君が、買ってきた大好きな「ポテトフライ」をさあ食べようか！としていると…離れたところにいた 6 歳の女の子が、いつの間にか青年の横に来て目をキラキラ(◡\_◡) H 君は、イロイロつぶやきながら…ポテトを「1 本あげる」…すると女の子は「ありがとう」という仕草をしばらく繰り返していました。  
（※この仕草がめっちゃ可愛かった～）

### 子ども支援センターぽけっと

街にはクリスマスソングが流れる中、ぽけっとでは AKB 48 & 乃木坂 46 が流行中！今まで『お母さんといっしょ』の曲しか聞けなかった子供たちまで歌が聞こえてくるとニコニコ踊り始めます。



### サポートセンタースピリッツ

12 月といえばクリスマス！街中にでると、どのお店もクリスマスモードですね。ガイドヘルプでおでかけすると、そういった季節の移り変わりや季節の行事を感じることができます。みなさんともそんなひとときを過ごせたらと思います。

### 街かど福祉相談室ると

『相談支援専門員』のことはよく知られていないようで、行く先々で自分の仕事や制度についてお話しをすることがよくあります。関心を寄せていただけるだけでもありがたいと思う日々です。まだまだこれからですね。

### ハンドワーク

秋になって、シナリーの里・東金特別支援学校・日吉台小学校に販売に行ってきました。シナリーの里ではソーイングボックスが大好評で沢山売れました。エコクラフトのバックも好評でした。

### ありさ

10 月から 12 月にかけて沢山のイベントに参加しました。地域の色々なイベントに参加するのは、一年の内でも楽しみの一つです。準備は大変ですが、みんなで力を合わせて乗り切っています。

### かばの家

秋になると各特別支援学校では学校祭が行われます。カバの家では東金・長生・袖ヶ浦・日吉台小学校などに参加し、沢山の皆さん方にパンを買ってもらっています。この時期は、とても忙しい日々を過ごしています。

### 五根の家・小規模多機能ホーム／グループホーム

五根の家では年 2 回定期的に、防災訓練を実施しています。1 回は中央署員指導のもと、もう 1 回は地元消防団（城西班）による指導を受けています。今回は 11 月 29 日に中央署員指導のもと、夜間火災を想定した避難訓練と水消火器を使用した初期消火訓練を行い、中央署員による講話を頂きました。地域の地域住民の方々にお声掛けして 2 名の方にご参加頂きました。夜間はスタッフ 2 名で最大 18 人のお年寄りの支援をおこなっており、車椅子の方や認知症の方もいて、改めて地域の協力が大事だと感じました。今後も地元の方々とは火災時に協力し合えるような繋がりが持てたらと思っています。



### ちばしゃ通信（Vol2）



発行日：2014 年 12 月 19 日  
発行元：ちば地域生活支援会  
編集責任者：宮下・太齋  
連絡先：0475-53-3630

### 編集者のつぶやき

- 最近、出張続きでちょっとお疲れ気味です…でもいろんな人に出会い、出来事に接し、ホントに勉強になります。そのうち、皆様にも紹介できたらと思います。(Jerry)
- 最近一段と寒さが増してきましたね。体調管理等しっかりと行わなければ！と思う日が多くなりました…皆さんも気を付けてくださいね。(W)